

2020年度から教科化される小学校英語。教育現場で不安を抱える指導者向けの研修や、管内の小学校での放課後・土曜学習など英語指導の現場に幅広く携わる。

幼少のころから英語に関心があり、帯広南商業高卒業後、英国へ4年間留学。地元の音更町に戻り、英語指導に携わってきた。NPO法人教育支援協会北海道(本部・帯広)の安江こずゑ代表理事と出会ったことがきっかけで、05年から同協会の英語指導員として活動を始めた。

同協会が07年度からスタートさせた小学生向けの放課後・土曜の英語教室「放

小学校英語指導員、指導者育成トレーナー

えのもと ひさよ
榎本 尚世さん



課後イングリッシュの立ち上げにも携わった。学校も学年もバラバラの児童が20人ほど集まり、全て英語で行われる教室に魅力を感じた。「一人でも多くの子どもたちにこういう経験をさせたい」

各自自治体や小学校からの要請もあり、現在は上士幌や音更、本別で英語を指導する。来年度からは教科化の移行期間として、3〜6

多くの子に楽しさを



年生で英語の授業が本格化し、活動の舞台はさらに広がる。

子どもたちへの英語指導に加え、ニーズが多いのは英語の指導力を危惧する教

員らを対象にした研修だ。自治体が主催する研修で講師を務めるほか、同協会のワークショップで実践的な指導法を紹介している。「担任の先生はパーフェクトにできなくてもいい。小学生には楽しさを伝えることが大事」と話す。

うのは指示も相づちも全て英語。「日本語を介さず、体験的に示すことで子どもたちは英語を聞こうとする」。難しい言葉を使わずに解説するのではなく、シンブルに見せて導く指導法を提案する。

都市部での研修に参加できない地方の教員らを対象に、実際の指導現場の映像を取り入れた指導教材を同協会で作成。15年に無料の教材ホームページを開設した。映像の中で指導者が使

(正井早子)